

本資料は、日経BP社 ITpro 主催のAndroid
アプリの開発コンテスト「A3together」
のアイデア賞の受賞作プレゼン資料です

笛モールスアプリ



笛モールスアプリ

アプリと人間の感覚器を活用して遠くの人に
言葉を届ける

スマホと笛で

離れた人同士が

ネットワークが無くても

情報を伝え合えたら

3月11日、地震発生から、10分後

妻と、ケータイがつながる。

娘行方、不明。

もし、通行止めなら、大幅ロス

日没までに戻れない

情報は、混乱

そして

徐々に情報インフラが
閉じていく

その時思った

集団のうち、自転車のある人が
先に行って、笛か何かで、○か×だけ
知らせてくれたら、、、と。

カバンの中のスマホを見る

どんなに便利な道具も
ただの重たい箱だった

しかし、機能は生きている

まだ、何かできるのでは

スマホと笛で

離れた人同士が

ネットワークが無くても

情報を伝え合えたら

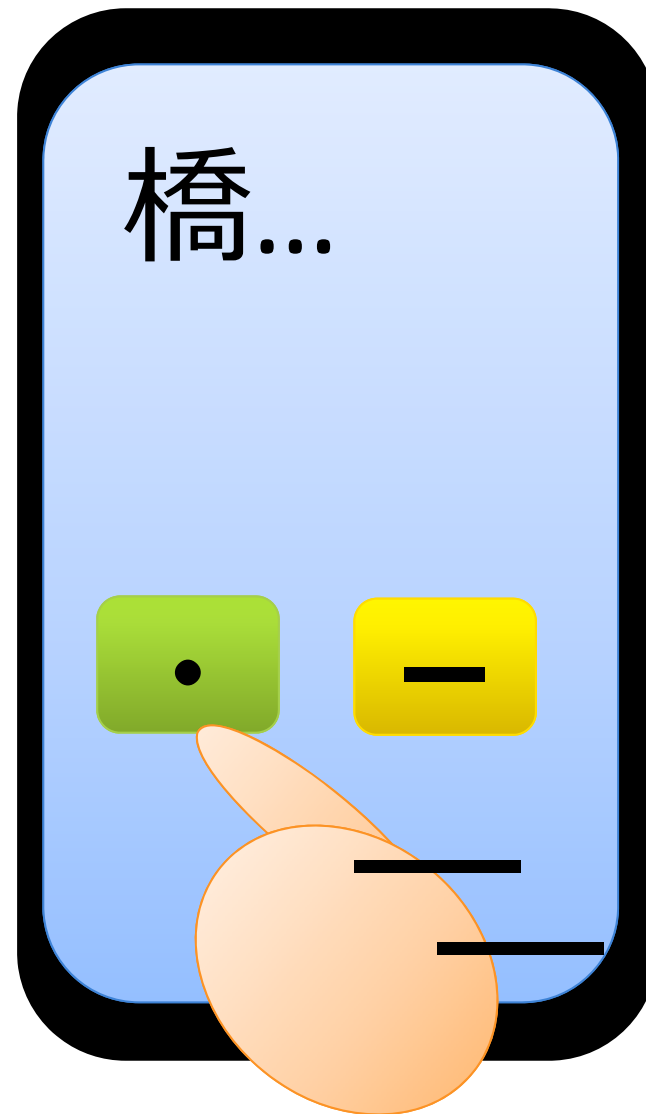
笛モールスアプリ

アプリと人間の感覚器を活用して遠くの人に
言葉を届ける

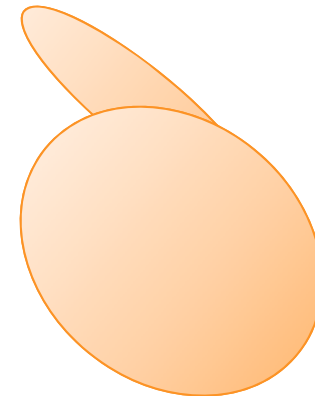
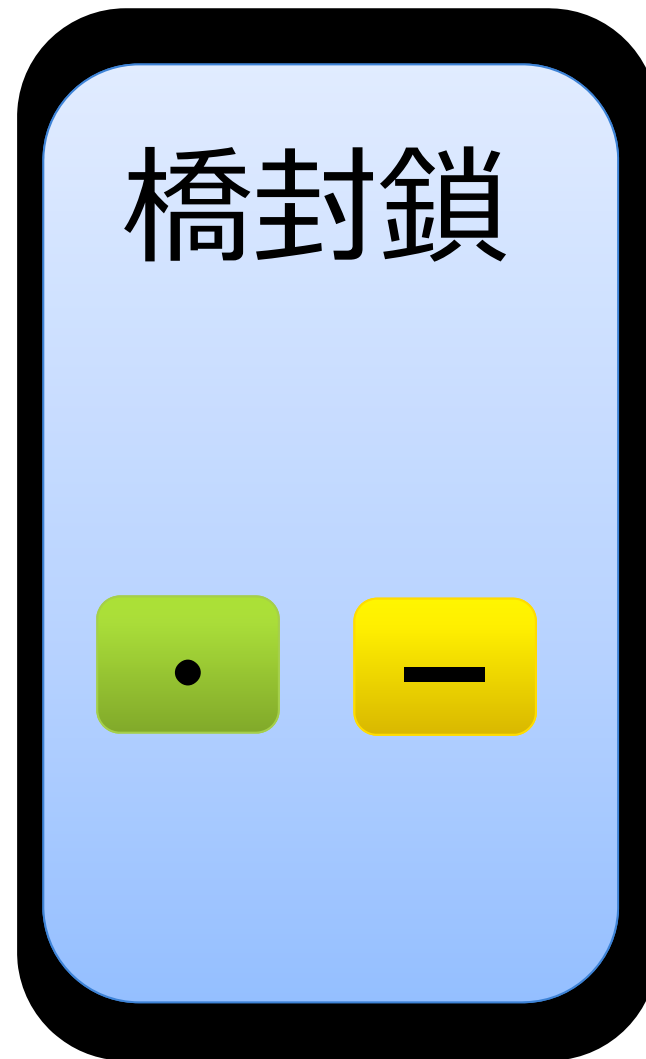
これは、なに？



聞こえるとおりに、タッチ



聞こえるとおりに、タッチ



特徴 内部辞書

- 1) 短く伝えられる
- 2) 聞き取りエラー機能

90000語 ⇒ 内部辞書

アナログのモールスにくらべて
短く、情報を伝えられる

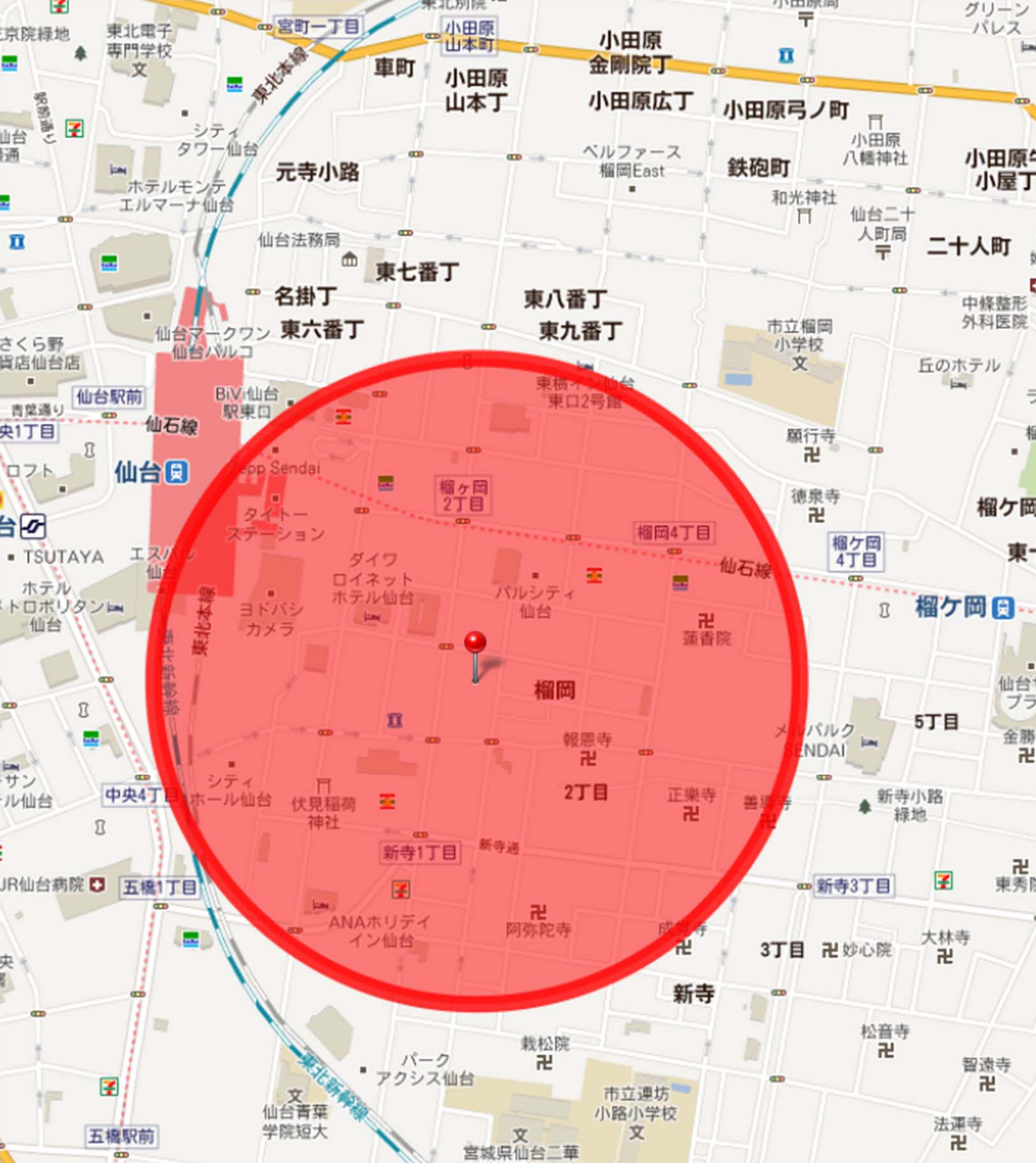
多少の間違いなら、変換候補3つ出す

ちなみに、何キロ届く？



800メートル

それって、どれくらい？



ここから

↓ 400m

仙台駅

笛モールスアプリ

アプリと人間の感覚器を活用して遠くの人に
言葉を届ける

インフラが途絶しても

授賞式でのプレゼンは
ここまででしたが・・・

公開資料は、特別ページがあります

用語に関して、注意書き

このアプリで提案するものは“トン”と“ツー”だけで構成され、かつ、笛を吹く時間構成はモールスにのっとして設計しています。いざという時に、ほとんど説明なしにおよそこれはどういう事をする道具なのかを、直感的に理解してもらえるように「笛モールス」とネーミングしました。

しかし、信号は、短点「トン（・）」と長点「ツー（-）」を2値とした二進法17ケタの表現をした符号構成であり、正規の「モールス信号」とは全く別物です。

プレゼン中に出てくる「・」と「-」の長い列の表記も、正式なモールスの文字コードではありません。（正規の信号とは、構成が、かけ離れたものです）

予めご了承ください。

大事な、補足

この作品はアイデアプラントだけで
生み出したものではありません

アイデアプラントは、2011年4月から、震災後の仙台に集うクリエイター・エンジニアらと、災害対応や復興に向けてアイデア創出をイベントやワークショップなどを通じて、幾度も行ってきました。

アイデア、機能仕様、画面デザインは、ファンドロイドに集う仙台のクリエイター・エンジニアらとともに考案したものが原案となっています。

なお、本提案内容以外にも、広い分野のアイデアを現在多くの東北のクリエイター・エンジニアらが考案し、開発を行なっています。

これからも、東北のクリエイター・エンジニアらの展開に、ぜひご期待ください！

資料作成 & 発表



代表 石井力重

riki.ishii@gmail.com